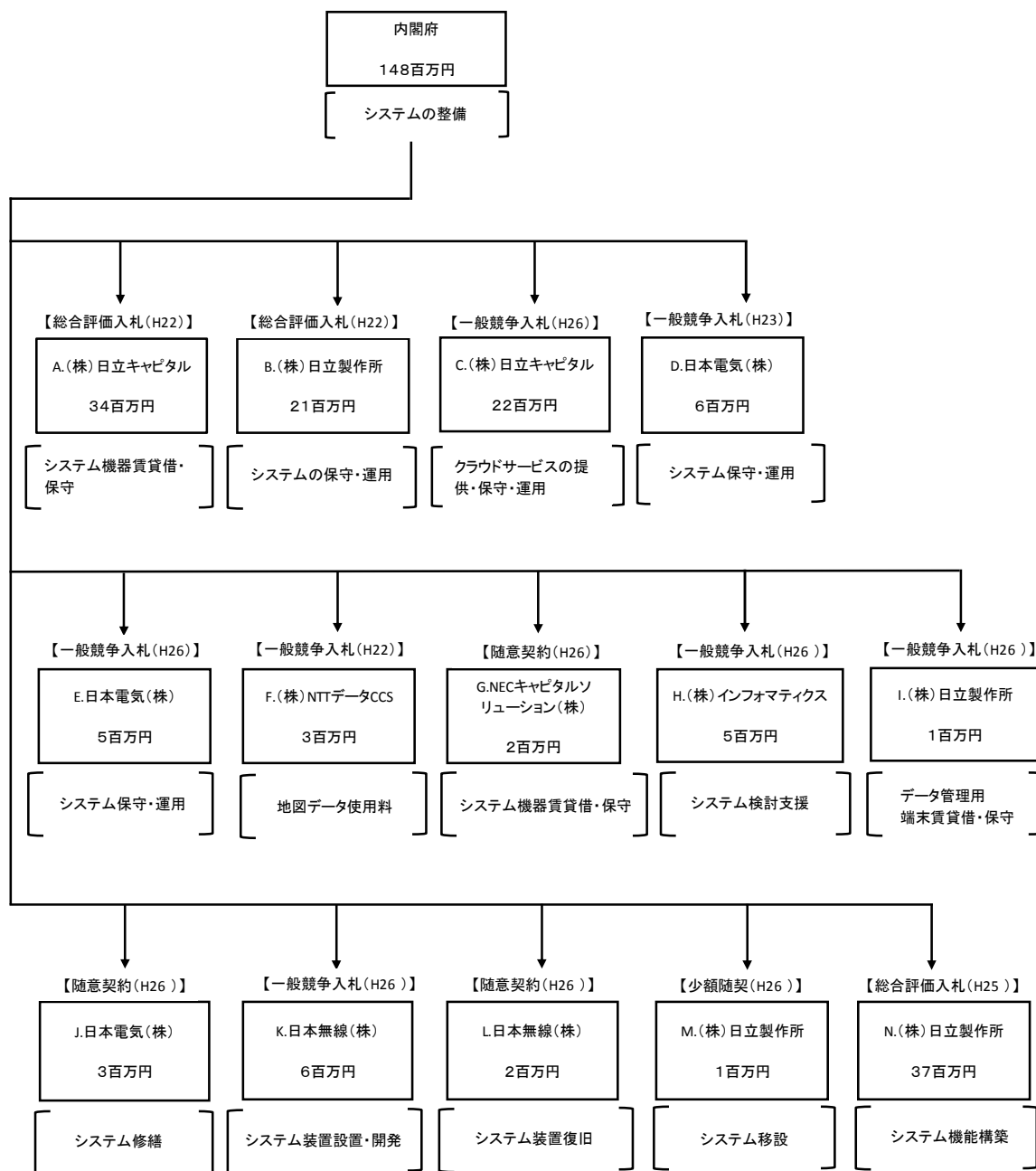


平成27年度行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	総合防災情報システムの整備経費			担当部局庁	政策統括官(防災担当)			作成責任者
事業開始年度	平成7年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(災害緊急事態対応担当)			荻澤 滋
会計区分	一般会計			政策・施策名	37 地震対策等の推進(政策10-施策④)			
根拠法令(具体的な条項も記載)	災害対策基本法 第8条の2、第51条、51条の2、51条の3 等			関係する計画、通知等	「防災基本計画」 「防災情報の共有化に関する専門調査会報告」 「防災対策推進検討会議 最終報告」			
主要政策・施策	国土強靱化			主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	阪神・淡路大震災以降、発災時における応急対策活動を円滑に行うため、被害の情報を早期に把握し、迅速・適切な初動体制の確立と意志決定を行うことの重要性が強く認識された。このような背景等を踏まえ、政府等における災害発生状況の早期把握や、迅速・的確な意志決定を支援するため、防災情報を地理空間情報として共有する総合防災情報システムの整備及び運用を行う。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	以下の機能を有する総合防災情報システムの整備及び運用を行う ①地震発生直後に観測震度情報等に基づき被害推計を行う機能 ②人工衛星画像等から被害を迅速に把握する機能 ③防災情報を地理情報システムにより共通の地図上に集約し共有する機能を有する。 平成22年度に、①、②、③各々独立であったシステムを統合し、平成23年度から総合防災情報システムとして運用している。							
実施方法								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求	
		補正予算	-	-	37	-	-	
		前年度から繰越し	255	122	37	97		
		翌年度へ繰越し	▲122	▲37	▲97	-		
		予備費等	21	-	-	-		
		計	473	393	313	404	0	
		執行額	351	128	148			
	執行率(%)	74%	33%	47%				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	大規模自然災害発生時に総合防災情報システムへの登録が想定される主な防災情報分野(15分野)のうち、自動化が行われている分野数	総合防災情報システムへの登録の自動化が行われている分野数	成果実績	分野数	8	9	10	
			目標値	分野数	8	9	10	10
			達成度	%	100%	100%	100%	
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
	大規模自然災害発生時に総合防災情報システムへの登録がなされた被害情報等の件数。なお、災害発生数の見込みは立てられないので、実績のみ記載。	活動実績	件数	29,709	26,038	24,292		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込	
	(運用保守経費) ÷ (登録被害情報等件数)	単位当たりコスト	千円	2,209	2,520	2,317	-	
		計算式	/		65,623千円 / 29,709件	65,623千円 / 26,038件	56,278千円 / 24,292件	災害数の見込みは立てられない。
平成27-28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	災害関係調査費	307						
	計	307	0					

事業所管部局による点検・改善					
		項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	大規模災害時における政府の迅速・かつ的確な初動対応が強く求められてきたところ。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	政府における災害対応の支援であり、地方自治体や民間等に委ねることができない事業である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	東日本大震災を経て災害状況の早期把握の重要性はますます高まっており、優先度は高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	極力、一般競争入札を行うことで競争性を確保している。また、仕様の作成においても、内閣府CIO補佐官の意見を踏まえつつ、仕様の意見招請に取り組んでいるほか、実績要件についても過度の制限とならないよう配慮しているところ。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	システムの効率的な運用を図り、単位当たりコストの低減に努めている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-		
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	内閣府CIO補佐官の意見を踏まえつつ、仕様の意見招請に取り組むことで、民間ニーズ、専門家の意見を踏まえた必要な費目に限定している。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	落札差金のほか、平成26年度事業の一部を平成27年度に繰り越す際に、より効率的な事業計画に変更しコスト削減をして繰り越したため予算に不用が生じたもの	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		○	複数年契約の活用を図り、コスト縮減に努めている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	大規模災害時における総合防災情報システムへの登録が自動化される分野が拡充されることにより、より迅速で的確な初動対応が可能となることから、成果目標に見合った実績であると見える。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	システム調達に際し、購入又はリースなど複数手段が考えられるものについては、コスト等を考慮して実施している。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	政府の初動対応検討の検討、関係省庁との防災情報等の共有に活用されている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	平成22年度のシステム統合によりコスト縮減に取り組むとともに、安定的な運用を目的としたバックアップシステムを構築することにより目標である稼働率99.9%(実稼働時間/予定稼働時間)を達成しているところ。調達については競争性を確保した契約を行っている。			
	改善の方向性	平成23年度から運用段階に至っているが、さらなる情報収集・伝達の省力化を図るべく自動化等に取り組む。また、他機関システムとの連携や、インターネットを活用した情報の外部配信や被害推計の高度化等、総合防災情報システムの更なる活用を図るとともに、執行に関しても、引き続き内閣府CIO補佐官の助言を得ながら、効率的な予算執行に取り組む。			
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
備考					
○平成24年度公開プロセスの結果 事業番号:0077 事業名 :総合防災情報システムの整備経費 評価結果:大幅な改善を要する。 取りまとめコメント: ・実際の運用を想定したシステム設計すべき。・民間・他省庁の資源との連携を考慮すべき。 ・自治体と共有できるシステムを整備すべき。・効果の検証をすべき。					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	62	平成23年度	0064	平成24年度	0077
平成25年度	0052	平成26年度	0050		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.(株)日立キャピタル

E.日本電気(株)

費目・用途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と用途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
借料及び損料	システム機器賃貸借・保守	34	雑役務費	システム保守・運用	5
計		34	計		5
B.(株)日立製作所			F.(株)NTTデータCCS		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費	システムの保守・運用	21	雑役務費	地図データ使用料	3
計		21	計		3
C.(株)日立キャピタル			G.NECキャピタルソリューション(株)		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費	クラウドサービスの提供・保守・運用	22	借料及び損料	システム機器賃貸借・保守	2
計		22	計		2
D.日本電気(株)			H.(株)インフォマティクス		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費	システム保守・運用	6	雑役務費	システム検討支援	5
計		6	計		5

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立キャピタル	システム機器賃借・保守(22年度国庫債務負担行為歳出化)	34	-	-

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立製作所	システムの保守・運用(22年度国庫債務負担行為歳出化)	21	-	-

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立キャピタル	クラウドサービスの提供・保守・運用(26年度国庫債務負担行為歳出化)	22	1	95%

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本電気(株)	システム保守・運用(23年度国庫債務負担行為歳出化)	6	-	-

E

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本電気(株)	システム保守・運用(26年度国庫債務負担行為歳出化)	5	1	98%

F

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)NTTデータCCS	地図データ使用料(22年度国庫債務負担行為歳出化)	3	-	-

G

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	NECキャピタルソリューション(株)	システム機器賃借・保守(26年度国庫債務負担行為歳出化)	2	-	-

H

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)インフォマティクス	システム検討支援	5	3	38%
支出先上位10社リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載			<input checked="" type="checkbox"/> チェック		

I.(株)日立製作所			M.(株)日立製作所		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
借料及び損料	データ管理用端末貸借・保守	1	雑役務費	システム移設	1
計		1	計		1
J.日本電気(株)			N.(株)日立製作所		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
雑役務費	システム修繕	3	雑役務費	システム機能構築	37
計		3	計		37
K.日本無線(株)			O.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
雑役務費	システム装置設置・開発	6			
計		6	計		0
L.日本無線(株)			P.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
雑役務費	システム装置復旧	2			
計		2	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

別紙3

I

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立製作所	データ管理用端末貸借・保守(26年度国庫債務負担行為歳出化)	1	2	81%

J

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本電気(株)	システム修繕	3	-	-

K

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本無線(株)	システム装置設置・開発	6	1	100%

L

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本無線(株)	システム装置復旧	2	-	-

M

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立製作所	システム移設	1	-	-

N

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)日立製作所	システム機能構築	37	3	32%